

支 部 だ よ り

北海道支部

昭和44年度は会員の転勤、海外留学、出張と異動が相つぎ、大学紛争の影響もあって、多事多端でしたが、会員の不断の努力により、ORへの各方面からの評価は著しく高まり、会員の増加、組織の強化、会員自身の地位の向上、普及活動の活発化といった成果が得られております。

I 昭和44年度事業概要

1. 研究会等

- a. 支部総会特別講演：“PPBSについて” 矢部真（国鉄，中央鉄道学園）
- b. 支部研究会（以下同）：“基準の設計風荷重および基準の設計強度に関する諸問題” 高橋浩一郎（札幌管区气象台）
- c. “住宅の住みやすさについて” 阿部昌信（北海道庁総合経済研究所）
- d. “予報業務の質的向上を目的としたアンケート調査” 浅利英吉（東海大）

2. 支部受託研究

札幌管区气象台より，“地域社会の要望に対応する予報業務の質的向上を目的とするアンケート調査”を受託，全道气象台，気象協会，北海道放送，電々公社，北大，東海大から専門家が参加，昭和44年6月発起し，和45年3月終了しました。調査対象は，北海道内中学校1年生の父兄とし，52校，1973個の標本を得，このために開発した電子計算機による分類集計システムにより処理し，今後の予報業務の向上に役立つべき多大の情報を分析抽出し得ました。調査報告書は管内气象台に配布されるほか，関係各機関に提供され，情報化時代の発展にひとつの貢献をすることになります。

3. 経営科学講習会への協力

生産性北海道地方本部では44年度から経営科学講習を開講，当支部としてはその企画，講師の派遣，今後の組織化に至る，多角的な協力を行ない，本格的な普及，実践活動にとりこんでいます。

- a. 講習会概要：基礎数学コース（84時間），OR手法基礎コース（約130時間），OR専門コース（約90時間），の3段階シリーズ講習，通算1カ年。

- b. 対象者：大学卒2～15年の，経営，企画，電子計算機部門担当者。
- c. 実施：44年度末現在，基礎数学コース終了25名（電力，銀行，製造業），
- d. 講師：44年度；高橋浩一郎（气象台），古瀬大六，竹内清（小樽商大），浅利英吉（東海大），山村悦夫（北大）。45年度；上記に，伊藤正義，天野豊治（北海道工大），熊野雅之（拓銀）の3氏が加わる。

II OR成果に対する評価の例

- a. 国鉄総裁表彰：苗穂工場ORグループ（車輛管理における予測システム）。
- b. 電々公社総裁表彰：北海道電気通信局 樋口喜一（電話引込線障害防止）。
- c. 北海道新聞記事：阿部昌信（道庁総合経済研），（住宅の住みやすさ）。
- d. 同上紙コラム：高橋浩一郎（气象台）。

III 会員状況

通常会員39名，賛助会員3（拓銀，北海道電力，電々公社），前年度に対して50%増加しました。支部長：44年度；高橋浩一郎，45年度；古瀬大六（小樽商科大学）。

IV 昭和45年度予定，その他

- a. 气象台からの受託研究は継続の予定。
- b. 生産性の経営科学講習はOR手法基礎コースから開始（45年4月末開講）。
- c. 道内会員の連れい強化対策検討中。
- d. 司馬正次（北大），米国ハーバード大に留学している。（浅利記）

九州支部

1. 会 員

本年1月25日，福岡・天神の平和楼で，フェロー北川敏男先生の還暦お祝いの会が催されました。明るい雰囲気にもまれて，ますますお元気の様子。

現在の支部会員数。通常会員40名，学生会員1名，賛助会員4<9>社。

ちなみに，通常会員の分布をみますと，次のとおりです。

大学11，公社1，食品1，諸繊維2，化学3，鉄金属16，電機1，輸送機器1，諸運輸3，そ

の他1.

2. 支 部 報

最近、会員が大ぜいいっしょに集まることがなかなかむつかしいので、部報を媒体に、お互いのコミュニケーションをよくしようという考え方から、昭和43年8月、「OR九州」を創刊いたしました。

その後、会員の寄稿をベースに、学会の記事、会員の動静、研究事例の要約など、毎号、ローカルな話題を織りまぜながら、発行を続けております。

年4回のサイクルで、執筆は会員の、記事と編集は庶務幹事の、それぞれサービス・ワークになっています。

こんど第7号を迎え、＜パート特集＞を企画いたしました。内容は、九州における企業の立場から、その経験をもとに、パートの共通な面と、業種・組織・背景の違いによる特色・課題・方向のあらまし等。今回の構成は、黒崎窯業・電々九州・九州電力・西日本鉄道・新日本製鉄の各社です。

3. 研 究 活 動

九州OR共同研究会・福岡地区OR研究会がスタートしたのは、昭和37年・39年のことで、昭和41年5月に、九州支部が設けられました。

やがて、研究グループは、しだいに学会の会員と結びつくようになり、さらには地理的にも関係の深い大学ともつながるようになりました。

われわれは、原則として4半期に1回、会員会社の持ち回りで開催することにしております。

なお、ご参考までに、昨年の研究テーマの中から、2,3の事例について、簡単にご紹介しましょう。

◎ 工事要員の予測について <三菱化成・黒崎>

最近、工事要員の確保がむつかしくなってきた。このため、増設工事・保全整備工事等の所要人員を予測する方法を求め、工事計画検討の効率化を進めた。

◎ 転炉用炉材の需給体制の検討 <黒崎窯業>

需要の変化に即応する生産体制を考えておく必要があるので、粗鋼生産量の予測とともに、転炉用炉材として使用されるドロマイト煉瓦の需要予測を行ない、各地区製鉄所に対する各工場からの供給体制を、LPの問題として多面的に考察し、将来計画の指針とした。

◎ 長期計画・操業計画シミュレーション・モデルについて <日本板硝子・若松>

装置工業の重要な意志決定の一つである設備投資について、設備計画・在庫計画・生産計画・操業度計画の問題など、不確定要素の判断を、コンピューター・シミュレーションによって分析、経済計算モデルを作って検討した。